

報道発表資料  
令和7年11月27日  
国立国会図書館  
国立大学法人東北大学

令和7年度 東日本大震災アーカイブシンポジウム

## 震災アーカイブの構築・継続・次世代への継承

### 開催のお知らせ

国立国会図書館と東北大学災害科学国際研究所は、令和8年1月11日に「東日本大震災アーカイブシンポジウム」を開催いたします。

令和8年は東日本大震災(平成23年)から15年、熊本地震(平成28年)から10年の節目を迎えます。この間、国内外の様々な機関が、それぞれの強みを生かした特色ある震災アーカイブを構築し、継続的に運営してきました。教育現場では、防災学習・探究活動等における震災アーカイブの活用事例も生まれました。これらの取組は、震災の記録・記憶の次世代への継承に重要な役割を果たしています。

本シンポジウムでは特別講演として、米・ハーバード大学 アンドルー・ゴードン教授から、同学の「日本災害 DIGITAL アーカイブ」や日本の震災アーカイブの取組の意義について、海外の日本研究者からの視点でお話しいただきます。熊本県、石川県の震災アーカイブのご担当者から、震災アーカイブの構築・運営の現況についてご報告いただきます。また、宮城県多賀城高等学校の教員及び生徒の皆様からは、同校の「災害科学科」のこれまでの歩みと現在の取組についてご紹介いただきます。最後に、今後の震災アーカイブの在り方や、教育現場における活用等の展望について、登壇者によるパネルディスカッションを行います。

### ■ 日時、申込方法等

日 時：令和8(2026)年1月11日(日)13時から16時10分まで(開場:12時30分)

会 場：東北大学災害科学国際研究所多目的ホール

(宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉468-1)

主 催：国立国会図書館、東北大学災害科学国際研究所

後 援：デジタルアーカイブ学会

開催方法：現地開催のほか、事前登録者に対してオンラインで同時配信(Zoom)

参 加 費：無料

定 員：会場120名、オンライン300名(先着順)

申込み：以下URLのシンポジウム案内にある申込フォームよりお申し込みください。

<https://www.shinrokuden.irides.tohoku.ac.jp/symposium/20260111/>

(東北大学災害科学国際研究所・みちのく震録伝)

問合せ先：東北大学災害科学国際研究所 災害人文社会研究部門 災害文化アーカイブ研究分野  
(担当：柴山、小野)

電話番号：022(752)2099 E-mailアドレス：archiveforum@irides.tohoku.ac.jp

## ■ プログラム(敬称略)

### オープニング

開会の挨拶

東北大学 災害科学国際研究所 所長 栗山 進一

趣旨説明

東北大学 災害科学国際研究所 教授 今村 文彦

### 特別講演

「日本災害 DIGITAL アーカイブ」の取組みについて

米・ハーバード大学 歴史学部 教授

アンドルー・ゴードン(Andrew Gordon)

### 事例報告

「熊本災害デジタルアーカイブ」の取組みについて

熊本県 危機管理監 鳥井 薫順

「令和 6 年能登半島地震アーカイブ 震災の記憶・復興の記録」の構築と現在

石川県 戦略広報監 中塚 健也

防災学習・探究活動における震災アーカイブの活用について

宮城県 多賀城高等学校 教諭 石山 俊太

及び 災害科学科 生徒代表

### 進捗報告

国立国会図書館東日本大震災アーカイブ(ひなぎく)—システムのこれから—

国立国会図書館 電子情報部 主任司書 小林 芳幸

今後予想される震災アーカイブの未来について

東北大学 災害科学国際研究所 准教授 柴山 明寛

### パネルディスカッション

震災アーカイブの構築・継続・次世代への継承について

モデレーター：柴山 明寛、パネリスト：登壇者全員

### クロージング

閉会の挨拶

小林 芳幸